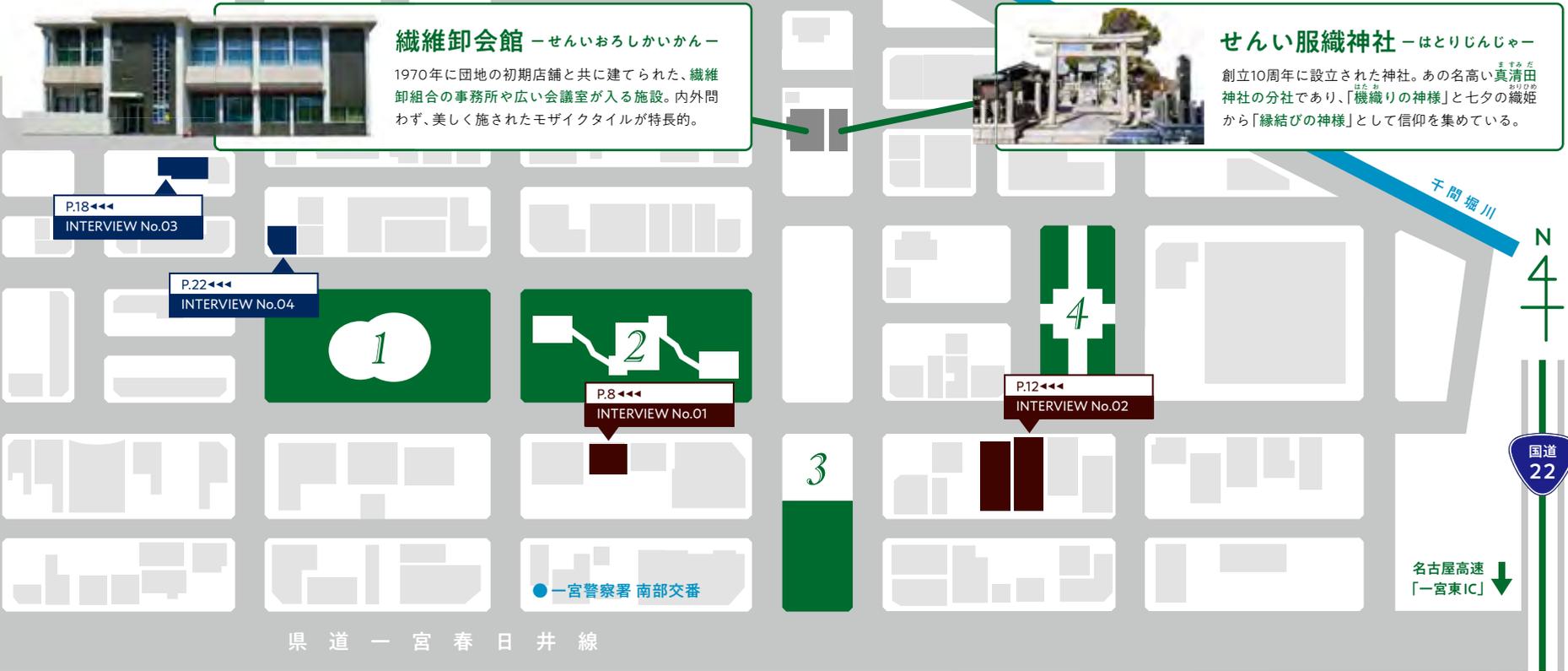


せんい団地 & 4つの公園

せんい団地は、物流拠点として約13万平方メートル(東京ドームの約3倍弱)という広大なエリアが整然とブロック分けされており、どの道も幅6、12メートル程ある特殊な構造。70年代に作られた商家などのビルが8割現存し、その殆どが使用されている。また、当初一宮の新名所として「全国初の緑の織維街」を作られるべく美化事業が推進され、緑豊かな4か所の特色ある公園が造成された。



織維卸会館 —せんいおろしかいかん—
1970年に団地の初期店舗と共に建てられた、織維卸組合の事務所や広い会議室が入る施設。内外問わず、美しく施されたモザイクタイルが特長的。

せんい服織神社 —はとりじんじや—
創立10周年に設立された神社。あの名高^{まきだ}真清^{おひりめ}田神社の分社であり、「機織りの神様」と七夕の織姫から「縁結びの神様」として信仰を集めている。

P.18 ←←←
INTERVIEW No.03

P.22 ←←←
INTERVIEW No.04

P.8 ←←←
INTERVIEW No.01

P.12 ←←←
INTERVIEW No.02

●一宮警察署 南部交番

名古屋高速
「一宮東IC」 ↓

●一宮市温水プール ●アイブラザー宮 ●いちい信用金庫 本店



さかえ公園

1

西側の通りに面した、せんい団地の入り口ともいえる場所に位置する広大な公園。中央には**日本庭園式**に整えられた松の木と石垣がある。それらを囲むように置かれたベンチで、ゆっくりと風に吹かれながら一息つける緑豊かな空間。



中央公園

2

せんい団地中心部の顔である**洋式**の公園。噴水の水路が走り、まわりはタイルと特徴的な形に整えられた木々が囲む。ここから周囲を見回せば、広い空と団地のレトロな建築の数々を一望することができ、まるで**現代からの解放感**を味わえる。



せんい緑地

3

エリア中央南部、「一宮せんい団地」バス停の目の前にある、丘のように盛り上がった林が特徴的な緑地帯。林の中は、大通り沿いとは思えないほど空気が澄んでいる。かつては「**羊の園**」と呼ばれており、ここで羊を飼っていた。(P.26→)



みどり公園

4

せんい団地の東の端にある、他3か所とは毛色の違うシンメトリーに舗装された公園。**せんい団地内で唯一「桜」**が植えられており、春先はゆっくりと花見をしながら腰をおろせる場所である。並木がキノコのように特徴的なのは、捨て猫対策。



Aerial Shoot

現在の「一宮せんい団地」中央公園



店舗の内外問わず、地元の作家や企業などによるワークショップやマルシェ、音楽イベント、展示会など「モノづくりの楽しさを、人に共有できるようなイベント」に力を入れる中島さん。

2004年に移転してから、「この街は生きていて、どの建物も使われている。ただ殆どが商社や倉庫などで小売店が少なく、土日はより静かな街なんです。静かで落ち着いた場所なのは良いことなんですけど、これだけ綺麗に整備されているのにもったいないなって」と感じた中

島さん。実際にキャリア教育講座の講師として、地元の高校でせいの団地の話をした際に「せいの団地に訪れたことがある人？」と聞いたところ、240人中2人ほどしかいなかったそうです。

昔は遠足や消防の出初式、祭りやヒーローショーなどがあったが、無くなってしまったことから、この街で働く人、消費者、作家など地域の繋がりを大事に子供達にも良い思い出が残るように、寄りやすい交流の場や機会を作りたいと考えた。

2013年秋に、みどり公園でクラフト作家の出店など「暮らしのマルシェ」を始めた。「20年かけて縁が広がってきた」と語り、6月と11月の大規模イベントである「粉祭」や「せいの団地の渋いさんぽ」などに繋がる。(P.26)

「ここは一宮のオアシスのような場所」と語る中島さんの活動は、この街に大きな影響を与え続けている。

せいの団地の魅力で交流を深めたい。そのためにもできること。



「人が家具屋に行くのって、人生で約3回だと言われているんですよ」と中島さんは言う。

2006年春、2階に喫茶「konon」をオープン。店名は「木の音」に由来する。「ほっとできる場所を作りたくて。それに家具だけじゃなく、喫茶や雑貨があると寄りたくなりますよね。平日にふらっと立ち寄ってお茶しながら家具を見て、土日に家族でじっくり選べるきっかけを作りたいかったです」と話す。



せいの団地の憩いの場

「konon ~木の音~」



「喫茶 konon」は建物2階の窓辺に併設する、木目の雰囲気に含まれた落ち着いた空間。家具屋にカフェが併設するのは、オープン当時珍しかったそう。ホッとひと息できる雰囲気の中、窓から見えるみどり公園の花や木々が彩りを添える。

喫茶メニューはすべて中島さんが考案。名古屋の名店「Coffee Kaita」のコーヒー豆や一宮産の蜂蜜など、地域の素材を使った飲み物に加え、ケーキやアイス、くず餅などの日替わりおやつを提供。落ち着いた時間を求めて来店する人が多く、キッズスペースがあるため親子連れにも人気だ。

日替わりクッキーは羊の小皿に乗っていたり、木玉毛織の生地で作られたコースターの服装も、尾州産のアイテムを取り入れたものだ。異業種ではあるが、中島さんの祖父が撚糸(繊維をねじって糸の強度を高める)をしており、幼いころから繊維が身近であったこと。学生時代はテキスタイルを学び、地元を応援したい気持ちから尾州の繊維業界と積極的に関わりを持つ。



愛知県一宮市せいの3-9-7

TEL 0586-76-9898

営業時間 平日 11:00~18:00
土日祝 10:00~19:00
喫茶 11:00~18:00
定休日 水・第1,3木

「今日の日替わりおやつなど!」

最新情報はInstagramにて!

<http://suehirokagu.com/>

<https://www.instagram.com/suehirokonon/>

